

この小冊子が 制作された理由

街中や学校、あるいはインターネットやテレビの中で、薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

そうした薬物情報の多くは、売人によって広められたものです。今では更生したかつての売人は「薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言っていた」と証言しています。

そのような情報にだまされないでください。薬物乱用という罠を避けるためには、事実を知る必要があります。この小冊子はそのために制作されたものです。

この小冊子をお読みになった上で、皆様のご意見やご感想をウェブサイト **drugfreeworld.org** から、またはEメール **info@drugfreeworld.org** までお寄せください。

マリファナとは？

マリファナとは、インド麻の花や種子や葉を乾燥させたもののことです。街では、ガンジャ、グラス、G、草、ハッパ、そしてポットといったさまざまな名前で呼ばれています。

ハシッシュとは、インド麻の樹脂からつくられる、マリファナに似た薬物の一種です。ハッシュ、ハシッシ、チョコとも呼ばれ、平均してマリファナの6倍もの強さを持っています。

「カンナビス」は、マリファナやハシッシュなど、麻からつくられるさまざまな薬物の総称です。

しかしどのような呼び名であろうと、この薬物は幻覚剤であり、生活の中で外界に対する知覚を歪めてしまいます。

カンナビスに含まれるそのような幻覚作用を生み出す化学物質は「THC」と呼ばれています。マリファナに含まれるTHCの量は一定ではありませんが、全体的にその含有量はここ数年で増加しています。



どのように使用されているか？

マリファナは世界で最も一般的に使用されている違法薬物です。2007年に行われた調査によると、過去1ヵ月の間に一度でもマリファナを吸ったことのある人は、アメリカ合衆国だけで1440万人に上ります。

マリファナは、通常、紙巻タバコ（ジョイント）として、あるいはパイプで喫煙されます。食物に混ぜたり、お茶にして飲用されることもあります。葉巻を開い

てタバコを取り除き、マリファナと取り替えて使用されることもあります。これは「ブラント」と呼ばれます。ジョイントやブラントは、時には、クラック・コカインやPCP（麻酔剤の一種）などのより強力な薬物とともに用いられます。

マリファナは乾燥させた麻の葉、茎、花や種子を混合したものです。それは通常、緑、茶色、灰色です。

ハシッシュは、黄褐色や茶色や黒い樹脂を乾燥させたもので、棒状が球状に固められます。マリファナやハシッシュを喫煙する時、特有の甘いにおいが発せられます。

ジョイントを喫煙すると、通常、数分でその効き目が感じられます。すぐに感じられるのは、心拍数の増加、身体の調整機能やバランスの低下、「夢のような」非現実的な心理状態などで、30分以内にはそのピークを迎えます。こういった短期的な作用は通常、2～3時間で消えますが、摂取する量やTHCの強さ、混合される他の薬物によっては、それよりも長く続く場合もあります。

ジョイントの典型的な常用者は、タバコを喫煙する場合よりも多くの煙を長く吸い込むため、肺に深刻な影響を受けます。のどの痛みやせきなどを伴う不快感だけでなく、1本のジョイントはタバコ5本分の発ガン性物質をつくり出すことがわかっています。

マリファナの使用による精神的な影響はさらに深刻です。マリファナを吸う人は、吸わない人に比べて、記憶力や判断力が低下します。

研究者によってマリファナを与えられた動物は、脳の構造にまでダメージを受けました。

マリファナの通称

ポット	チョコ
ハーブ	ハシッシュ
ウィード	ハッシュ
グラス	シット
ホワイト・	草(くさ)
ウィドー	G
ガンジャ	ハッパ
アストロ・ターフ	
バシグ	
ダガ	
ドープ	
ヘンプ	
ホーム・グロウン	
J	
メリー・ジェーン	
リーフ	
ローチ	
テキサス・ティー	



マリファナと その背景

麻の木（マリファナやハシッシュといった薬物の原料）は、2千年以上前から幻覚剤として使用されてきました。

麻には400種以上の化学物質が含まれていますが、心に作用する主な成分はTHCです。麻に含まれるTHCの量が、その薬物の強さを決定します。麻に含まれるTHCの割合は、天候、土壌などの要因に左右されます。栽培技術の進歩によって、麻の栽培者たちは、以前よりも高い割合でTHCを含むよう

に麻を品種改良しました。麻に含まれるTHCの割合は、1974年には平均1%でしたが、1994年には4%にまで増加しました。2008年にその割合は9.6%にまで達し、1970年代にこの薬物に関する分析が行われるようになって以来、最高の数値となっています。

シンセミラ（スペイン語で「種なし」）と呼ばれるタイプの麻は、THCの含まれる比率が7.5%から24%にまで上ります。

アルコール VS マリファナ

マリファナを吸うのは、アルコール飲料を飲むのと同じことでしょうか？

それを決めるのはあなたです。ここにいくつかの事実をあげます。

アルコールを構成する物質はエタノールだけです。マリファナには400を超える毒性物質に加え、タバコの煙に含まれるのと同じ発ガン性物質が含まれていることが明らかになっています。タバコの喫煙者と違い、マリファナを喫煙する人は、薬物の効き目を高めるために煙を深く吸い込み、できるだけ長く保持しようとする傾向があります。そのため、肺に与える悪影響はさらに深刻になります。

アルコールは数時間で身体から排出されます。一方マリファナに含まれるTHCは、数週間、場合によっては数ヵ月間も体内の脂肪組織にとどまります。その長

さは使用期間と使用する薬物の強さによります。

THCは免疫機能を低下させますが、アルコールが免疫機能を低下させることはありません。

これは、アルコール乱用の危険性を低く見積もっているわけでは全くありません。アルコールも同様に害をもたらします。しかし、マリファナに含まれる化学物質（その中には発ガン性物質もあります）は、この薬物を取った後、長期間にわたって体内にとどまるということを認識すべきです。

国際的な統計

国 連によれば、世界中で1億5880万人がマリファナを使用しており、地球上の全人口の3.8パーセントを超えています。

- アメリカ合衆国では、9400万人以上がこれまでに一度はマリファナを使用したことがあると認めています。

- アメリカ合衆国の2007年「薬物使用と健康に関する全国調査」によると、アメリカでこの年に初めてマリファナを乱用した人は210万人に上ります。2007年には

12歳から17歳の若者の6.7%がマリファナの常用者でした。

- 日本の警察庁によると、2007年に押収されたマリファナの重量は2006年の2倍に上ります。2008年の上半期（1月から6月）に警察当局によって押収されたマリファナの重量は94.7kgで、前年同時期に比べ2.5倍も増加しています。

- 合衆国政府の推計によると、アメリカ国内におけるマリファナの生産量は、1981年に1,000トンだったものが2006年には10,000トンにまで達し、過去25年間で10倍以上に増加しています。

- 2005年にアメリカ合衆国で緊急治療室に運び込まれた患者のうち、24万2200人がマリファナ絡みでした。

● 日本では、2008年上半期のマリファナに関連する検挙者の65%が30歳未満でした。また、マリファナの使用や違法な栽培により大学生が相次いで逮捕され、大きな社会問題となりました。

● アメリカ合衆国で実施されたある調査によると、15歳になるまでにマリファナを使用していた26歳以上の成人のうち、62%がコカインを、9%がヘロインを使用したことがあり、また54%が精神医療用の薬品を医療以外の目的で使用していました。

● アメリカでは、マリファナはアルコールに次いで、致命的な自動車事故を起こした運転手の体内から最も頻繁に見つかる薬物です。



マリファナの有害な影響

マリファナを吸ってからすぐに起こる反応として、心拍数の上昇、方向感覚の喪失、身体調整作用の欠如などがあり、しばしば憂うつ感や眠気がその後に続きます。パニック発作や不安に襲われる人も中にはいます。

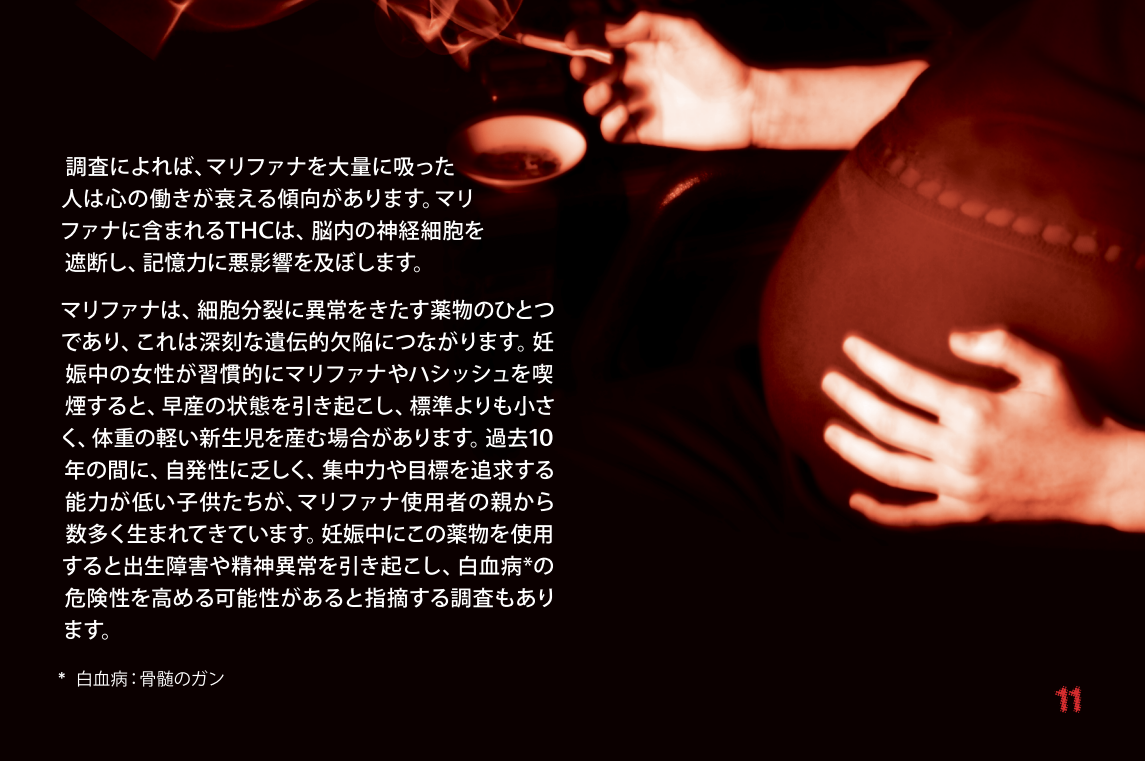
しかし、問題はそれだけではありません。複数の科学研究によれば、マリファナの活性成分THCは何週間も（場合によってはさらに長期間）体内にとどまるということがわかっています。

マリファナの煙には、複数の発ガン性物質がタバコよりも50%から70%も多く含まれています。ある研究調査では、マリファナ1本が肺に及ぼす悪影響はタバコ5本分に相当すると報告しています。マリファナを長い間常用している人は、しばしば気管支炎や呼吸器官の炎症を起こします。

マリファナは単に身体の健康に影響を及ぼすだけではありません。2008年にオーストラリアで行われた研究では、マリファナを長期間大量に使用すると脳の異常を引き起こすとしています。それを裏付けるように、マリファナの長期的な影響に関する過去の複数の調査では、マリファナの使用により、他の主な薬物を長期間乱用した場合と同様の変化が脳内に引き起こされることが示されています。継続的なマリファナ使用と精神異常との関連性を示す研究も数多くあります。

マリファナは精子細胞の構造を変え、変形させます。したがって、少量のマリファナでさえ、男性の一時的な生殖機能障害の原因になることがあります。女性がマリファナを使用すると、月経の周期が乱れることがあります。





調査によれば、マリファナを大量に吸った人は心の働きが衰える傾向があります。マリファナに含まれるTHCは、脳内の神経細胞を遮断し、記憶力に悪影響を及ぼします。

マリファナは、細胞分裂に異常をきたす薬物のひとつであり、これは深刻な遺伝的欠陥につながります。妊娠中の女性が習慣的にマリファナやハシッシュを喫煙すると、早産の状態を引き起こし、標準よりも小さく、体重の軽い新生児を産む場合があります。過去10年の間に、自発性に乏しく、集中力や目標を追求する能力が低い子供たちが、マリファナ使用者の親から数多く生まれてきています。妊娠中にこの薬物を使用すると出生障害や精神異常を引き起こし、白血病*の危険性を高める可能性があるとして指摘する調査もあります。

* 白血病：骨髄のガン



短期的な影響

- 知覚の歪み
- パニック
- 不安
- 運動調整機能の低下
- 反応が鈍くなる
- 最初の「冴えた」感じの後の眠気や憂うつ感
 - 心拍数の増加
(心臓発作の危険性が高まる)

長期的な影響

- 一般的な病気に対する抵抗力の低下
(風邪、気管支炎など)
- 免疫機能の低下
- 成長障害
- 異常な細胞の増加
- 男性ホルモンの減少
- 急速な肺繊維組織の破壊、
永続する脳の機能障害
- 性的能力の減退
- 勉強の困難：情報を学び、
記憶する能力の低下
- 無気力、物憂げさ、目的の欠如
- 性格や気分の変化
- 物事をはっきり理解することが
できない



「**親**友から『マリファナ1本、ビール一杯やるほどの度胸もないのか』とけしかけられ、いたずら気分で使い始めた。14歳の時だった。それから7年後、中毒は行き着くところまで行ってしまった。もはや高揚感を感じることもなく、幾分かでも正気に戻ったように感じるためだけに使っていた。

自分自身や自分の能力にも否定的になり始めた。被害妄想*に取りつかれ、いつもびくびくしている自分、友達が信じられない自分が本当に嫌だった。妄想がひどくなり、あらゆる人を遠ざけ、気が付くと誰も陥りたくないようなひどい状態になっていた。ひとりぼっちだった。朝起きると薬物を使い始め、一日中使い続けていた。」 — ポール

* 被害妄想：他人に対して根拠のない疑い、不信感、恐れを抱く状態のこと。

薬物乱用へと 向かう道

マリファナを使用する人は、この薬物に対する耐性ができるため、以前と同じ高揚感を得るためにさらに強い薬物を使用するようになります。薬物の効き目が消え始めると、最初にマリファナを取った時と同じように、不快な状況から抜け出すために、その人はさらに強い薬物へと走るようになります。マリファナ自体はその人を他の薬物へとは導きません。つまり、人は望ましくない状態や感情から逃れたいがために薬物を取るのです。

マリファナはその問題を一時的に「ハイ」になっている間だけ、覆い隠します。その「ハイ」な状態が失せていくと、その問題や望ましくない状況は、以前より強烈になって戻ってきます。こうして使用者は、マリファナの「効き目」がなくなると、さらに強力な薬物へと走るのです。

ほぼすべてのコカイン使用者（99.9%）が、マリファナ、タバコ、アルコールなどをきっかけとし、薬物の

使用に手を染めています。もちろん、マリファナやハシッシュを吸う人すべてがより強い薬物を使用するようになるわけではありませんし、そうでない人もいます。また、完全にマリファナ使用を止めた人もいます。しかしながら、何人かはより強力な薬物へと走るのです。ある研究によると、マリファナを使用している若者（12歳から17歳）がコカインを使用する可能性は、使用していない子供と比べ85倍も高く、15歳以前にマリファナを吸っていた子供の60%がコカインを使用するようになっています。

マリファナは、より強力な薬物と混合されることがあります。ジョイントは時に強力な幻覚剤であるPCP（エンジェル・ダスト）に浸して用いられます。PCPは白い粉ですが、液状のものも入手でき、これがマリファナとともに使用されます。PCPは暴力的な振舞いの原因となることが知られており、脳卒中や昏睡状態といった深刻な反応を引き起こし、死に至ることさえあります。



「**私**が初めてジョイントを取ったのは、学校の校庭でした。今ではヘロイン中毒で、8度目の薬物中毒の治療を終えたところです。」

— クリスチャン



煙の向こうの 真実

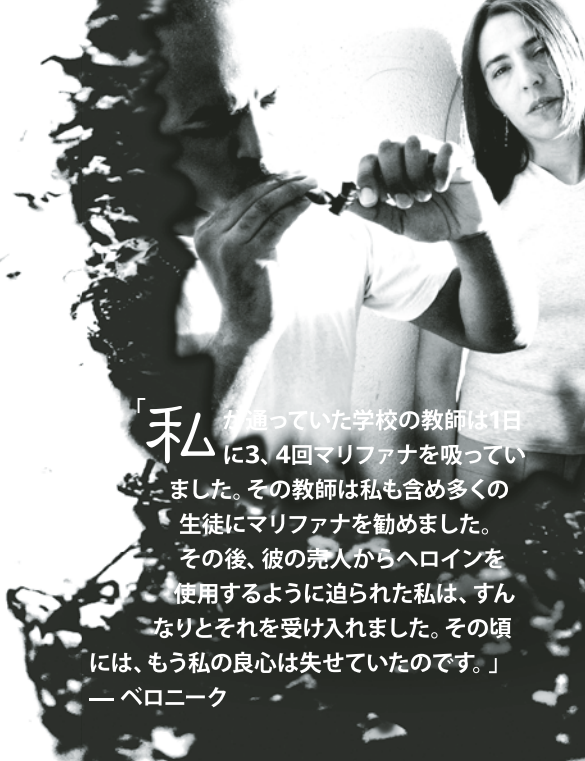
マリファナの使用は、それを吸引する人にだけ害があるわけではありません。その人は社会にとっても危険な存在になりえます。

調査の結果、マリファナの使用によって、日常生活にさまざまな支障をきたす可能性があることが明らかになっています。129の大学の学生を対象とした調査によると、調査前の30日間にマリファナを27日以上取っていた学生には、注意力、記憶力、学習能力に深刻な低下が見られました。郵便局員を対象とした調査では、マリファナに陽性反応を示した職員は、それ以外の職員と比較して、事故は55%、けがは85%、欠勤は75%多いことが示されています。

オーストラリアのある研究で、運転中の死亡事故の4.3%がマリファナが原因で生じたことが明らかになりました。

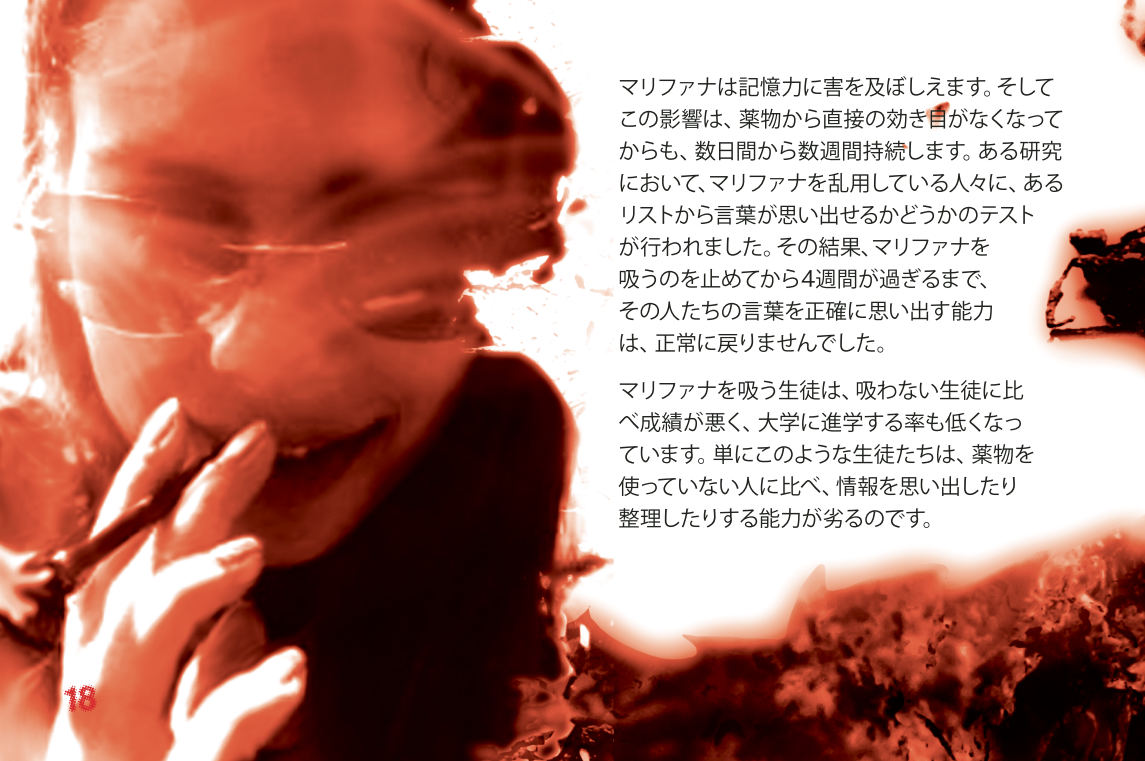
多くの国では、薬物に触れずに成長することはほとんど不可能です。薬物を勧める仲間からの圧力は非常に強く、また薬物の危険性についての正しい情報がいつも得られるとは限りません。

マリファナは危険ではないと言う人はたくさんいるでしょう。どのような人がそう言うのかよく考えてください。それはきっと、あなたにマリファナを売りつけようとしている人でしょう。



「私が通っていた学校の教師は1日に3、4回マリファナを吸っていました。その教師は私も含め多くの生徒にマリファナを勧めました。その後、彼の売人からヘロインを使用するように迫られた私は、すんなりとそれを受け入れました。その頃には、もう私の良心は失せていたのです。」

— ベロニーク



マリファナは記憶力に害を及ぼします。そしてこの影響は、薬物から直接の効き目がなくなってからも、数日間から数週間持続します。ある研究において、マリファナを乱用している人々に、あるリストから言葉が思い出せるかどうかのテストが行われました。その結果、マリファナを吸うのを止めてから4週間が過ぎるまで、その人たちの言葉を正確に思い出す能力は、正常に戻りませんでした。

マリファナを吸う生徒は、吸わない生徒に比べ成績が悪く、大学に進学する率も低くなっています。単にこのような生徒たちは、薬物を使っていない人に比べ、情報を思い出したり整理したりする能力が劣るのです。

薬物の売人が よく使う誘い文句

十代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもそもの理由として、55%が「周りの雰囲気流された」と回答しています。彼らには「ダサイ」と思われたくない、カッコよく見られたい、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

売人たちは、友達のような顔をして近付き、親切を装って「いい気分になれるもの」を教えてあげると持ちかけてきます。その薬物を使うと「周囲から浮いてると思われなくなる」とか「仲間の中で目立てる」というのです。

薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言います。彼らは「マリファナをやっても、それより強いドラッグに走ることはない」などと言ってくるでしょう。

売人は「お客さん」が払うお金にしか関心がありません。薬物のせいでその人の人生が台無しになっても気にしません。かつての売人たちは、薬物を買う人を「いいカモ」としか見ていなかったと証言しています。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自分自身で正しく判断できるはずです。

薬物についての真実

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量に違いがあるだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人の心にも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙だったり、不合理であった

りするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物はすべての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

**本当の解決策は、事実を認識し、
最初から薬物など使用しないことです。**



なぜ人は薬物を取るのでしょうか？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、次のようなものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避するため。
- リラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかありません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし薬物を使用した結果は、その薬物によって解決しようとしている問題よりも常に悪いものとなります。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



参考文献

U.S. Substance Abuse and Mental Health Services Administration

Medical Research Institute of New Zealand

“Study strengthens marijuana brain damage case,” *ABC News*, 4 June 2008

“Cannabis harm worse than tobacco,” *BBC News*, 31 July 2007

“New Report Finds Highest Ever Levels of THC in U.S. Marijuana,” Office of National Drug Control Policy press release, 12 Jun 2008

National Toxicology Specialists Inc.

警察庁刑事局組織犯罪対策部
「平成20年度中の薬物・銃器情勢」（2009年4月）

Drug Abuse Warning Network, 2005: National Estimates of Drug-Related Emergency Department Visits

“Report on the situation of drugs and guns in the first half of 2008,” The National Police Agency Department of Drug & Gun Countermeasures, Aug 2008

“NIDA Infocasts: Marijuana,” 14 Jan 2008, National Institute on Drug Abuse

2007年 世界薬物報告書
国連薬物・犯罪事務所

University of South Carolina

“Increase of university students arrested for crime about marijuana,” *The Sankei Newspaper*, 30 October 2008

American Academy of Pediatrics

写真：
9ページ: istock.com;
10、12、14ページ: Alamy

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに22の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。新しいドラッグが次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっていきます。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

真実を知ってください：薬物

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤・吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

さらに情報を知りたい方、またはこの小冊子シリーズのいずれかをさらに
何部かご希望の方は、下記までご連絡ください。



Foundation for a Drug-Free World
1626 N. Wilcox Avenue, #1297
Los Angeles, CA 90028 USA
drugfreeworld.org
info@drugfreeworld.org
1-818-952-5260

薬物のない世界のための財団
日本支部

〒170-0001 東京都豊島区
西巣鴨1-17-5
パークホームズ西巣鴨308
TEL: 03-5394-0284
Eメール: info@drugfreeworld.jp
drugfreeworld.jp